

個人的な意味の変化とコミュニケーションにおける意味の遊びの調整はどう関わるか

藤川 直也（東京大学）

ある経験をする前と後とでは、ある言葉の自分にとっての意味がすっかり変わってしまうということがある。すっかり変わらないにしても、そうした経験のおかげでその言葉を通じたものの見方がちょっと変わる、ということは往々にしてある。本発表では、朝倉(2024)『ことばと世界が変わるとき—意味変化の哲学』が探求するこうした経験による個人的な意味の変化を、コミュニケーションにおける意味の変化と関係づけてみたい。コミュニケーションの意味の変化として取り上げるのは、言葉の意味の遊びの調整だ。言葉の意味は往々にして適用に関する不確定さ—意味の遊び—をもつ。コミュニケーションにおいてはそうした言葉の意味の遊びを話者間で調整する必要がときに生じる。本発表では、朝倉(2024)が指摘する心の壁の変化と視野の重層化という二種類の個人的な意味の変化が、コミュニケーションにおける言葉の意味の遊びの調整とどう関わるのかについての一つの描像を描いてみたい。